

障がい者支援施設 熊本ライトハウスのぞみホーム

2022 年度 事業計画

1 施設の基本理念

～「隣人を自分のように愛しなさい」～

『伝える愛 伝わる愛』

キリスト教の「隣人愛」の精神に基づき、利用者の基本的人権が尊重され、その自己実現が図られるよう、その人らしく喜びを持ち社会の一員として生活できるよう支援する。そのために「生活の質」「支援の質」そして職員の連携を図る。

2 2021 年度の主な取り組み

(1) 新型コロナウイルス感染症対策

- ① リスクレベルに合わせた対策会議を開き、課題検討、情報発信に努めた
- ② 衛生用品の備蓄確認、感染を想定した内部研修の実施

(2) ADL に合わせたグループ活動

- ① 利用者の特性に配慮したグループを 2 班に分け、活動を行った
- ② 他事業所と連携した生産活動への挑戦を行った

(3) 組織力の向上、健全な職員チームの育成

- ① 月 1 回の職員グループ会議の実施
- ② 職員研修の実施

(4) 施設設備の整備

- ① めぐみホームでの利用者行動把握のための記録用カメラ設置
- ② ホーム裏の樹木の伐採を行った

(5) 防火、避難訓練の実施

- ① 夜間を想定した避難訓練の実施

(6) 労務管理

- ① 働き方改革による業務内容の見直し
- ② 4 連休取得の奨励
- ③ 適正労働時間管理の徹底

(7) 地域社会への貢献

- ①ふれあいランチの実施（コロナのため休止期間あり）

3 2022 年度の取り組み方針

(1) 取り組み方針

- ①職員の主体性を育む職場環境と、個々の能力のスキルアップ、管理者育成による組織構造のインフラ整備
- ②利用者のニーズに合った支援活動の実施
- ③将来を見据えた盤石な経営基盤の構築
- ④地域共生社会の実現
- ⑤働き方改革の実施

(2) 重点目標

①組織力を高め、健全な職員チームを育成する

- ア) 職員の連携・チーム力の強化
- イ) 働きやすい職場環境の整備
- ウ) 法人内施設との連携
- エ) リーダー格の人材育成
- オ) 就業規則等施設内規則の把握
- カ) 感染症や災害時の BCP 対策の強化

②利用者中心の支援を展開する

- ア) 利用者の特性や興味に合わせたグループ活動
- イ) 転倒事故や服薬におけるアクシデント・インシデントの防止
- ウ) リスクマネジメント機能の強化
- エ) 個別支援強化
- オ) 高齢化・重度化への支援
- カ) 障害者虐待防止、身体拘束等の適正化の推進

③障害福祉サービスの動向に鑑み、持続的な経営の安定を図る

- ア) 業務効率化のための ICT 活用について学ぶ
- イ) 財務基盤を充実させる
- ウ) コロナ感染症への対応の継続

④地域福祉の充実のために地域社会に貢献する

- ア) 日常的な地域との交流の促進
- イ) 生産活動の実施

4 2022年度の具体的な取り組み

(1) リーダーを中心としたグループ活動の実施(4班制)

- ①グループ間の話し合いとグループ会議での進捗状況報告(月1回)
- ②スキルアップを図るため、グループ間での業務確認を行う

(2) 職場環境の健全化

- ①職員の能力、役割に応じた研修の実施。サポートカレッジの利用推進
- ②育児、看護、介護等に係る休暇取得の促進
- ③適正労働時間の管理に努めるため、年2回確認を行う
- ④連休の取得率を50%とする
- ⑤併設施設との相互研修を行う

(3) 法人内でのルール統一に向けた情報交換を行う

- ①法人で行われる会議、研修への積極的参加

(4) 個々の職責レベルの確認

- ①個々の職員がそれぞれのレベルを確認、認識し、それによる施設長面接を年2回行う

(5) 就業規則等諸規則を全職員が理解する

- ①就業規則等諸規則の読み合わせ研修会を実施する

(6) 利用者中心の支援を行う

- ①利用者へ手指消毒・マスク装着の協力を求める
- ②接触器具の消毒徹底・こまめなバイタルチェック・利用者変化時の報告
- ③利用者の思いを傾聴し、共感する姿勢を持ち・特性を理解した関わり
- ④ADLに合わせた個別な活動(グループ化)
- ⑤児者地域交流ホール「さんさん」の定期的な活用(月2回以上)
- ⑥法人内施設との情報交換・内部研修等の実施
- ⑦ヒヤリハット、インシデント報告の徹底

(7) 財務内容の周知

- ①職員会議等での内容説明
- ②ICT化の更なる推進

(8) 地域社会への貢献

- ①施設長の町内会、学校関係などの地域会合への参加
- ②ホームページによる情報発信